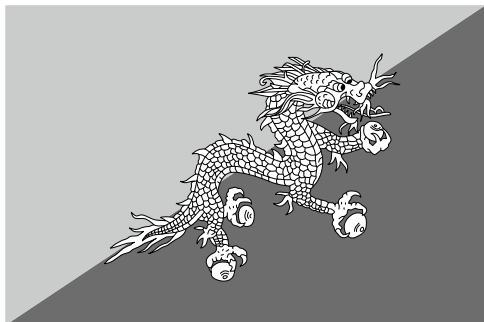


## 『自分の「龍」を育てよう』 子ども達に伝えたかったこと』

このお話は、2011年11月15日ブータン王国のワンチュク国王陛下と同王妃陛下が日本の国賓として来日され、短いご滞在中時間を割いて福島県相馬市立桜丘小学校をご訪問された際に、小学校の子どもたちに語られた話です。

内容は、ブータンの国旗に描かれた『龍』のお話を国王自ら次のように話されました。

皆さんは、龍を見たことがありますか？  
私があります。王妃もありますね。  
龍は何を食べて大きくなるのか知っていますか？



「龍」が描かれているブータンの国旗

龍は、経験を食べて大きく成長していくのですよ。

私たち一人ひとりの中に「人格」という名の龍が存在しているのです。

その龍は、年を取り、経験を食べるほど、強く、大きくなっていきます。

人は、経験を糧にして、強くなることができるのです。

そして、何よりも大切なことは、自分の龍を鍛えて、きちんとコントロールすることです。

この龍の話を、私がブータンの子どもたちにする時には、同時に、

「自分の龍を大切に養いなさい、鍛錬しなさい」と

ということを言っています。

わがままを抑えることや、感情をコントロールして生きることが大切なのです。

ペマ・ギャル氏の著書「ワンチュク国王から教わったこと」PHP研究所より

とても素敵なこのお話は、「自分の人格をどう育てていくか」を問うていると同時に、これから日本を担う若い人たちをどう指導していくか、という大切な教えが含まれているように思います。

いま、いじめや体罰・DV・セクハラ・オレオレ詐欺・部落差別を含む様々な差別等、道徳（人格）よりも目先の利益（物欲）を重視してきた日本社会（教育）の在り方

に対する問題が後を絶ちません。

人を蔑むことでわずかな喜びを味わうような貧素な龍（人格）に育てるのではなく、「人格者になる」という崇高な目的を目指し、鍛錬を積んでいきたいものです。

お金や名声を得ようとする前に、まず自分に向き合い、自分の頭で考え、どう行動することが自分の魂（人格）を大きくすることなのかを、人生の中心に置くことで大きく成長していくのだと思います。自己中心の考えがなくなると、同じ事でも受け止め方が変わり周りの景色も変わります。

同和問題も同じです。部落に生まれたことが恥ずかしいのではなく、部落出身者について差別意識・偏見を持つてることが恥ずかしいことであり、差別をされる側が恥ずかしいのではなく、差別をする側が人間（人格）として恥ずかしいのだと言う事に気付いてほしいものです。

（文責 安岐分室 橋本）

～第6回国東市隣保館まつり～

「つるの川柳」応募作品～

若い二人心合わせて守る過疎

安岐町 手嶋 欣一

がんばれよ元気に育てひ孫たち

武蔵町 野田 妙子